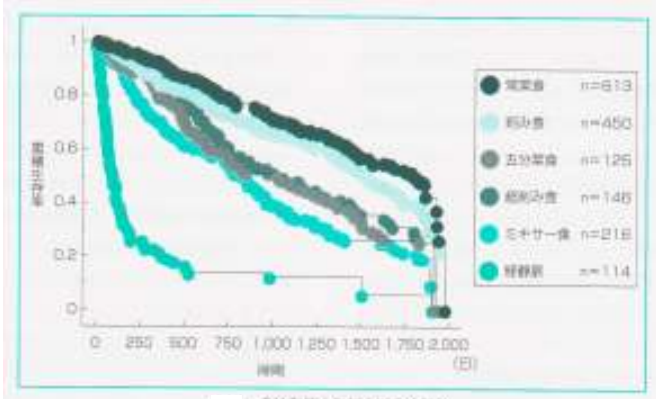




Nutrition Support Times

形あるものを食べるのが一番

当院のNSTは摂食嚥下チームと一心同体で活動しています。これは患者さんにはできるだけ最後のひとさじまで安全に口から食べていただきたい。という気持ちとその方が十分な栄養がとれるからです。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士みんな同じ気持ちで連携をとってやっています。嚥下訓練は言語聴覚士さんが中心となり看護師さんと綿密な計画を立て実施しており、大切なりハビリです。栄養なくしてリハはあり得ないという、震災後の3月に講演にきてくださいました若林先生のお言葉にもあったように、この訓練を継続している間も十分な栄養管理を絶対忘れてはなりません。そして、なるべく形あるものを食べていただきたい。高齢者の食形態の生命予後は通常の形態を摂食するほどよいと札幌の西円山病院の藤本歯科医師が言われています。とても興味ある報告です。そして、咀嚼することで満腹感も味わえます。通常の硬さのものを食べるには義歯も有効で、口腔内の送りこみもよくなり栄養摂取も十分できるよ



うになります。コツコツと続けてやっていくには急性期病院では不向きですが、ここから始めていただくことは本当に大事なことです。我々は神戸スワローズ等を通じて、患者さんが他施設で継続した嚥下訓練をスムーズに受けられるシステムを構築しようと努力しています。食べられるということで患者さんの毎日が少しでも幸せに感じられることを願っています。



COPDの食事

当院では重症な COPD 患者さんがたくさんおられます。ARDS の患者さんも珍しくありません。しかし、疑問なのですがこんなにたくさんの呼吸器疾患の患者さんがいながら、今までなぜ栄養管理はされていなかったんだろうと思うのです。このような患者さんは普通の方の 1.5 倍ぐらいのエネルギー消費量が亢進していることは既に知られています。体重が目安になることも知られています。なぜここまでなるのだろう。残念ながらカルテをみても栄養相談を受けた形跡もなく、ただどんどんやせている。2 年前に比べると 5kg もやせているとかザラにおられます。これは呼吸状態が悪くなると食べることがしんどくなったり、食べやすい炭水化物中心の食事に偏り、筋肉が減っていくいわゆるサルコペニアの状態になっていると思われま。やはり、呼吸器疾患と診断されたらそのときから栄養療法を実施していくことが必要だと思われま。また、HOT を導入されている方に関してもうまく

NCM 講演会予定(第4木曜日)

月日	内容	担当
5/26	周術期の栄養	東別府先生
6/23	病院移転前後で中止	
7/21	病院移転前後で中止	

NSTカンファレンス・回診
毎週水曜日 PM1:00~8北(861)
NSTカンファレンスルーム



付き合っていくために栄養は欠かせないものです。PEG を造設して大変快適な毎日を送られていた方もいました。例えば BMI が 18.5 を切っていたらすぐに栄養療法をはじめめるために、一度栄養相談を受けていただきたいと思ひます。

NST送別会

長年一緒にやってきたメンバーが去ってしまうことは、本当に寂しいことです。いろいろな職種が集まるチーム医療では、たくさんバックアップをしてくれて、教えてくれて数え切れないほどの恩恵を受けました。これも患者さんのために、という熱いモチベーションを仲間同士で、はぐくんできた賜物であると思ひます。医療に関わる我々の気持ち一つで大きなものが育つことを感じました。人を仲間をこれからも大切にしたい。